

令和6年度学校自己評価システムシート (県立 越生高等学校)

目指す学校像	生徒一人一人の長所を伸ばし、社会で活躍できる「人財」の育成を目指す学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 主体的な学びによる基礎学力の充実と専門的な能力の向上
	2 豊かな心と自主的・自立的な態度の育成および進路意識の向上による進路希望の実現
	3 保護者や地域と連携した安心・安全な開かれた学校づくり

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	8名
	事務局(教職員)	5名

学 校 自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価						
年 度 目 標		実 施 日 令和7年2月3日						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1.	【現状】 ・全体的には学習環境、学習態度ともに良好であるが、ごく一部の生徒に学習意欲の面の課題がある。 ・欠点を取らせないための事前指導を重点を置いた指導により、自発的な学習に繋がっていった。 ・ICT活用、タブレット端末の本格的な運用等に関する校内体制づくりのため、情報管理運用を新設効果的な使用について検討を開始できた。 【課題】 ・様々な問題を抱えた生徒の個々に合わせた教科指導を心掛け、徹底した基礎的、基本的学習内容の定着に粘り強く取り組ませていく必要がある。 ・欠点を取らせないようするための補習体制の構築と業務調整をする必要がある。 ・ICT機器が授業に取り入れられているが、使用度合いを高める必要がある。 ・学年や教科の連携を図り、検定試験に取り組みやすい日程調整や補習体制を構築し、職員の負担を軽減を図る必要がある。	○学びの質の向上	①基礎学力不足の生徒に対する補習や適時・適切な課題を課す。 ②一人一人の生徒の状況に応じた基本的学習習慣の確立させる指導を行う。 ③学習の成果を発揮できよう日常的な学習指導をおこなう。	①基礎学力不足の生徒に対する補習や適時・適切な課題を課す。 ②一人一人の生徒の状況に応じた基本的学習習慣の確立が見られるか。	①288%の生徒が、授業内容を理解できるようになったと回答している。 ②ICT機器の使用機会が増えた。 ③アンケート結果に生徒の学習習慣の確立が見られるか。	A	・生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、「わかりやすい授業」づくりに継続して取り組む必要がある。 ・ICT機器活用について、研修機会の確保や情報提供を更に行う必要がある。 ・曜日による授業の偏りを解消し、バランスよく授業ははいることができた。 ・「生徒の意欲的な取り組みができていない」と評価している教員の割合が増加していることから、さらなる学習習慣の確立に取り組む必要がある。 ・「欠点」を取らせないための事前指導を継続して行う必要がある。 ・丁寧な指導を徹底することによる教員の負担をICT機器やアプリケーション等を活用しながら軽減する必要がある。 ・家庭学習時間を増やすために適切な時期に適切な量の課題を課す必要がある。 ・各種検定にチャレンジする生徒が17%増加してきたが、さらに検定取得を推進する必要がある。 ・授業や校務でICT機器の活用を推進する必要がある。 ・新校開校に向けた準備を計画的かつ効率的に進める必要がある。 ・次年度以降も感染症予防に取り組んでいく必要がある。	・ICT機器の使用は有効であるが、高校ではタブレット購入費用が家庭負担であることが問題です。義務教育諸学校は、市町村が整備しているので、貸与の対応をしている。 ・補習が長期休業中等に行われているが、今後も継続して取り組んでほしい。 ・家庭学習は、適切な量を出して学習時間を増やす取り組みが必要である。やる生徒はやるが、全くやらない生徒もいるのではないかと。2種分化してしまう危険がある。 ・学習習慣の確立のためには、明確な目標(英語検定等)を生徒が持っている指導が必要である。 ・学校で課題を終わらせたり、補習を受けている生徒もいるので、家庭学習習慣の確立が大切である。 ・ICT機器を使用して、AIドリルなどをやると、学習意欲や理解度がわかるので導入を検討する必要がある。 ・検定取得に向けて、生徒個人への希望と授業での呼びかけは必要である。さらにチャレンジする生徒が増えることを期待している。 ・新校開校に向けて、多くの課題がありますが、広報も含めて円滑に進めてほしい。
		○学習環境の整備と学習意欲の向上	①課題等の提出期限を守らせるための個々の生徒に対する指導を重ねる。 ②第1学年、第2学年の各教科においてICT機器を推進する。 ③英語検定・漢字検定等の各種検定取得の奨励と、そのための補習等の日程調整および業務調整する。 ④新校開校に向けて施設等の改修計画を検討する。	①課題等の提出期限が守られて提出されたか。 ②アンケート結果により学習指導等でICT機器活用ができたか。 ③各種検定試験へ取り組み生徒数が増えたか。 ④新校開校に向けた施設等の計画案が作成できたか。	①学習習慣の確立のために課題を適切な量適切な時期に課し、丁寧な指導による提出期限を守れた。 ②生徒一人ひとりに合わせた補習等が受けられている。 ③徐々にはあるがICT機器の活用により効率的で効果的な指導ができてきた。 ④各種検定にチャレンジする生徒が15%増加した。 ⑤観点別評価に取り組む教員が増え、Classroomを活用した指導ができていた。 ⑥新校開校に向けた「越生・鳩山新校準備委員会」を、県教育委員会等と計画的に開催し、順調にすすんでいる。 ⑦新校の拡張と管理棟、自給館の改修工事計画について財務課、営繕課、設備課、請負業者との協議を順調にすすめている。 ⑧新校開校に向けた準備を計画的かつ効率的に進める必要がある。	A	・基本的学習習慣を更に確立するための指導を、あらゆる教育活動の場面で推進する必要がある。 ・部活動の統廃合が進んでいるが、積極的参加を促す必要がある。 ・メンタル面や家庭環境等に関する相談件数が多数あったことを踏まえて、更なる外部機関との連携が必要である。 ・社会規範(挨拶等)を身に付けられ、良好な人間関係を構築できよう、人間性を高める指導が必要である。 ・人間関係のトラブルが多いことから、全ての教育活動をおとし、粘り強い指導が必要である。 ・生徒の「居場所」として本校が機能するための環境整備に取り組む必要がある。 ・生徒自身が自己理解に基づいた主体的な進路選択ができるように、各種検査結果の活用を指導する必要がある。 ・面接指導や各種検査結果の活用により、生徒の自己肯定感を培う取組が必要である。	
2.	【現状】 ・大多数の生徒が落ち着いた学校生活を送っており、基本的学習習慣が身についている。 ・きめ細かな進路指導により、多くの生徒が希望する分野に進路を決めている一方で、自己理解が不十分のため適切な進路選択ができていない生徒もいる。 【課題】 ・特定の生徒が欠席や遅刻を繰り返している状況がある。精神的な課題を抱えている生徒に適切な支援をすることが喫緊の課題である。 ・進学先や就職先の情報や自主的に収集・分析できる能力を身に付けさせる必要がある。	○基本的学習習慣の確立と規範意識の向上	①家庭との連絡を密にするとともに、教員間での情報共有と共通理解に基づく指導を行う。 ②挨拶の励行と言葉遣いの日常的指導を実践する。 ③部活動に参加している生徒たちへ最後までやり通すための声掛けをおこなう。 ④SC、SSWの活用、及び状況に応じた地域自治体との連携を図る。	①欠席、遅刻、早退数は減少したか。 ②日常生活の中で積極的に挨拶し、良好な人間関係を築けているか。 ③④人間関係を構築するスキルを身につけることができているか。アンケート結果も生徒の自己肯定感の向上が見られるか。	①欠席、遅刻をしないで登校できている生徒が5%増加し、基本的学習習慣が確立されたか。 ②授業規律は、大多数の生徒は守れているが、少数ではあるが守れていない生徒がいる。 ③部活動に参加している生徒の割合は、昨年度とほぼ同じであるが、登録人数は12名増加した。 ④SC、SSWの配置が浸透し、80%の生徒が充実していると考えている。 ⑤越生町社会福祉協議会やボランティアの協力を得て、「第3の居場所づくり」に取り組み、生徒支援が今まで以上に充実してきている。	A	・基本的学習習慣を更に確立するための指導を、あらゆる教育活動の場面で推進する必要がある。 ・部活動の統廃合が進んでいるが、積極的参加を促す必要がある。 ・メンタル面や家庭環境等に関する相談件数が多数あったことを踏まえて、更なる外部機関との連携が必要である。 ・社会規範(挨拶等)を身に付けられ、良好な人間関係を構築できよう、人間性を高める指導が必要である。 ・人間関係のトラブルが多いことから、全ての教育活動をおとし、粘り強い指導が必要である。 ・生徒の「居場所」として本校が機能するための環境整備に取り組む必要がある。 ・生徒自身が自己理解に基づいた主体的な進路選択ができるように、各種検査結果の活用を指導する必要がある。 ・面接指導や各種検査結果の活用により、生徒の自己肯定感を培う取組が必要である。	・基本的学習習慣が確立しつつあることは、大変好ましい状況で、今後も丁寧な指導を継続してほしい。 ・今後も、外部機関と連携して適切な対応をしてほしい。 ・生徒の「居場所づくり」のため、越生町内にも「子ども食堂」があるので、必要があれば利用してほしい。 ・図書館の機能に「第3の居場所」としての機能を付加できた取組は、今後も継続してほしい。 ・図書館でのイベントは、生徒が楽しく参加できている。生徒が作成したPRポスターはとても素晴らしい。 ・各種進路ガイダンスは、非常に有効である。普通科と美術科で進路希望が違うことから、別々に行ってもよいのではないかと。 ・進学のためのお金に関する情報は必要で、奨学金説明会の開催はありがたい。今後も継続して説明会を行ってほしい。 ・進学を考えているのであれば、待っているのではなく、自分で進学先を見学する必要がある。 ・各種検査データを生徒も学校も活用して、適切な進路決定ができるようにしてほしい。 ・生徒は、早く進路の方向性を家庭で話し、決められる良い。
		○進路意識の向上と進路実現	①適時に個人面談を行い、主体的な進路選択の支援を行う。 ②「見り限目の教室」による地域との連携強化と、進路選択の幅を拡張する必要がある。 ③各種検査結果の活用と進路学習や進路講演会等、進路行事の計画的に効果的に行う。 ④ISTの活用。	①自己理解ができ、自らの将来像をイメージさせる指導ができたか。 ②家庭で進路に関して相談する生徒が3%増加し、進路意識が高まっている。 ③「見り限目の教室」(総合的な探究の時間)を地域の協力を得て実施し、生徒の進路選択の幅が広がっている。 ④生徒、教員ともに、各種検査結果の有効活用課題がある。 ⑤進路指導部とISTが連携して、面接指導や求人開拓等に取り組み、進路実現に貢献している。	①各学年で生徒の成長に合わせた、各種ガイダンスを実施し、生徒の進路意識の向上に貢献している。 ②保健体育の授業で本校近隣の一般道を使用した「ロードレース大会」の練習や大会についてPTAの方や地域の方々との協力を得て実施できた。 ③「第3の居場所」の取り組みに地域の方々の協力を得られている。 ④地域の行事やフェスティバルに生徒がボランティアで例年通り参加できた。	A	・本校生徒のボランティア参加者を増やし、生徒の自己有用感を高める必要がある。 ・教員の生徒募集や他の業務の見直しを行い、削減をはかる対策が必要である。 ・PTA活動の充実とともに、本校教育活動の広報をリンクさせた取組を検討する必要がある。 ・本校生徒の活躍できる機会や参加人数を増やす必要がある。 ・近隣の中学校に加え、さらに多くの中学校に本校の良さを周知する必要がある。 ・本校教育活動を地域の方々や中学生に知ってもらう機会を職員に負担に配慮しつつ、学校説明会や公開授業を充実させる必要がある。	
3.	【現状】 ・生徒の作品を展示してもらえる地域施設との連携等、業務科の活動を中心に広報活動の推進を図れたが、市による学校情報の発信が不十分である。 ・渉外活動をし、PTAとは適宜情報交換することができている。 ・学校説明会とは、感染防止の観点から時間や説明内容の工夫を行っていたが、募集人員確保は厳しい状況である。 【課題】 ・本校HPについては、更新頻度と早期掲載を意識し、学校案内の充実を図らなければならない。 ・生徒募集活動として、地域の中学校・大学との交流事業等も検討していく必要がある。 ・学校行事で地域の方々とのふれあいや地域の公共施設での作品展示など、「実顔に見てもらう」機会をつくることで保護者・地域との連携を強化する。 ・学校説明会は昨年同様開催の回数を確認しつつ内容の改善と告知のHPへの早期掲載に努める必要がある。	○教育活動の積極的な情報発信	①本校の教育活動に関するHPへの掲載回数を昨年度以上に増やした。 ②学校行事への関心を高めるため、保護者及び地域の方々への情報を発信する。 ③生徒及び保護者が参加するボランティア行事について、情報を収集し参加を奨励した。	①HPへの掲載回数が昨年度以上にできたか。 ②保護者や地域から理解と協力を得ることができたか。 ③ボランティア活動へ参加する生徒が増加したか。	①本校のHP掲載件数が増え、掲載内容が充実してきている。 ②保健体育の授業で本校近隣の一般道を使用した「ロードレース大会」の練習や大会についてPTAの方や地域の方々との協力を得て実施できた。 ③「第3の居場所」の取り組みに地域の方々の協力を得られている。 ④地域の行事やフェスティバルに生徒がボランティアで例年通り参加できた。	A	・本校生徒のボランティア参加者を増やし、生徒の自己有用感を高める必要がある。 ・教員の生徒募集や他の業務の見直しを行い、削減をはかる対策が必要である。 ・PTA活動の充実とともに、本校教育活動の広報をリンクさせた取組を検討する必要がある。 ・本校生徒の活躍できる機会や参加人数を増やす必要がある。 ・近隣の中学校に加え、さらに多くの中学校に本校の良さを周知する必要がある。 ・本校教育活動を地域の方々や中学生に知ってもらう機会を職員に負担に配慮しつつ、学校説明会や公開授業を充実させる必要がある。	・校外での生徒の活動は、地域の方から喜ばれているので、今後も取り組んでほしい。 ・学校説明会で生徒の出席があるのは良いことなので、今後も継続してほしい。 ・本校の良さをもっと理解されていないので、教育活動を広報活動を充実させてほしい。 ・SNSを活用した学校情報の発信を検討してほしい。 ・「新校」になる機会は、本校に対するイメージを変えていくチャンスとして捉えて、広報活動を進めてほしい。
		○募集人員の確保	①本校HP上で、本校の教育活動に関する公開し情報を発信する。 ②職員に負担軽減を図りながら、学校説明会の実施や外部の説明会へ参加する。	①HP更新回数を増やしつつ、様々なメディアの使用を検討できたか。 ②地域施設等を活用して本校の教育活動情報を発信できたか。 ③学校説明会等を計画的かつ効果的に実施できたか。 ④校務のICT化を図り、職員の負担軽減を図る。	①新たな本校教育活動の広報メディアの検討ができたか。 ②例年通り、公民館や近隣の中学校に生徒作品を展示できたか。 ③地域の施設を使用した説明会を実施し、生徒による説明をしたことで参加者には本校の良さをよく伝えた。 ④学校説明会は例年通りの回数であったが、個別相談などで丁寧な説明できる機会を設けた。 ⑤中学校訪問や近隣の中学校を含めて83校訪問し、本校の良さを広報できた。	B	・本校生徒の活躍できる機会や参加人数を増やす必要がある。 ・近隣の中学校に加え、さらに多くの中学校に本校の良さを周知する必要がある。 ・本校教育活動を地域の方々や中学生に知ってもらう機会を職員に負担に配慮しつつ、学校説明会や公開授業を充実させる必要がある。	